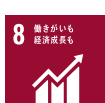
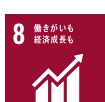
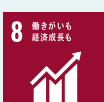
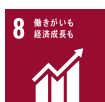


成長戦略

OKIはマテリアリティに掲げたとおり、これまで培ってきた「顧客基盤」「インストールベース」「技術力」を強みに、SDGsに掲げられた社会課題を解決するモノ、コトを実現すべく、多くのパートナーとの共創を進め、社会実装に向けて取り組んでいます。

マテリアリティに掲げた7つの社会課題に対するOKIグループの取り組み

社会課題	2022年度までの取り組み	SDGs
老朽化問題	老朽化により安全性が懸念される社会インフラに対して、センサー技術やAIを活用した新たなソリューションを提供し、インフラの保全に貢献します。	  
自然災害 ▶詳細は次ページ ご参照ください。	- 防災・減災の高度化により、自助・共助・公助のための総合防災ソリューションの実現を目指します。 - 河川水位監視と映像監視を複合したリアルタイムな情報提供により、「災害に強い持続可能な都市」の実現に貢献します。	  
交通問題	- 実績あるITSシステムの進化とV2Xネットワークの実現により、インフラ協調ITSサービスで交通事故の削減、交通渋滞の緩和などを目指します。 - OKIの交通プラットフォーム「LocoMobi®2.0」を核に、ETC2.0を用いた新しいサービスを実現します。 5G×自動運転分野において、インフラ側からの自動走行支援の実証実験に参画します。	   
環境問題	- 脱炭素化の実現に向けて、AIロボットによる省人化やエリア収音技術などを活用したテレワークによる業務効率化、ゼロエナジーゲートウェイなどによる環境負荷低減を推進します。 - サーキュラーエコノミーに貢献するため、具体的な取り組みを推進します。	   
労働力不足 ▶詳細は次ページ ご参照ください。	警備・施設管理、医療、介護、建設現場、流通分野など、労働力不足に悩む現場に対して、センシング技術、AI、メカトロ技術およびオンライン24時間保守の実績を活かした、安心・安全な現場環境と作業効率の向上を実現する製品・ソリューションを提供します。	   
労働生産性	- 自社工場でのノウハウを活かして、お客様におけるバーチャルOne Factory化やスマート工場化を支援します。 - スマート工場のノウハウをもとに農業や漁業などスマート化を推進する製品・ソリューションを提供し、労働生産性の向上に貢献します。	   
感染症拡大 ▶詳細は次ページ ご参照ください。	金融機関、流通分野において、非接触端末、ETC自動決済、遠隔運用ロボット活用により、現場での非接触・非対面を実現します。	   

社会課題解決への取り組み事例

新型コロナウイルス感染症の拡大による社会環境の変化は、人々の生活様式のみならず、多くの産業における業務形態の変化、事業方針の見直しを余儀なくされるほどの大きな影響を与えています。OKIは中期経営計画2022において、情報通信事業で培ったセンシング・ネットワーク技術とハードウェア事業で培ったモノづくりを強みに、現場の課題を即時かつ適切に解決する「AIエッジ」を軸に社会課題を解決し、「社会の大丈夫をつくっていく。」ことを宣言しました。ここでは、マテリアリティに掲げた7つの社会課題のうち、特にウィズ／アフターコロナに向け対応が急務となる3つの課題への取り組みをご紹介します。

自然災害への対応

2018年度以降、頻繁に発生している激甚災害レベルの台風、ゲリラ豪雨による水害に対し、全国の各市町村では国や都道府県の防災情報システムからの情報を受け、対応の判断や指示をしています。しかし、特に地域住民への避難指示において最も重要なのは迅速かつ正確な指示であり、これを実現するためには現場からのリアルタイムかつ正確な情報を提供し迅速に共有することが必須となります。

OKIは、この課題に対応すべく、音響センシング技術を用

いた水面非接触型の危機管理水位計を地方自治体に提供しています。今後は、河川水位と映像監視を複合したセンシング情報を収集し、現場側に設置されたAIエッジコンピューターによって一次処理／分析した結果を現場および市町村に即時に通知できる仕組みを提供していきます。さらにこのデータを気象データなどとも連携することで、地域住民や来訪者の安心・安全を確保し、災害に強い強靱な街の実現に貢献していきます。



労働力不足への対応

少子高齢化と人口減少が同時並行で進む中、2014年頃から、複数の産業分野で深刻な人手不足が常態化しています。このような状況下、ウィズ／アフターコロナも相まって「無人化・非接触・非対面」への要望が高まり、現場の作業を代行するサービスロボットへの期待が高まっています。しかしながら、現在さまざまな現場で利用されている協働型ロボットは、人や周囲の状況変化を察知すると、安全性確保のために停止して動かなくなるなどの課題があり、活用範囲拡大の障害となっています。OKIは、これまで培ってきた映像処理、AIエッジ

ネットワーク技術、ロボティクス技術に加え、オンライン・リモートからの24時間保守を実施してきた実績を活かして、24時間働き続ける、高度遠隔運用ロボットソリューションの開発を進めています。OKIのロボットの大きな特長は遠隔の運用センターからの操作を可能とした点にあり、ロボットが困難な状況に陥りそうになったら、人が遠隔から操作することで即時に乗り越えることが可能です。また、複数のロボットを一人が監視する1:N対応を実現することにより、人手不足の解消と現場の無人化・非接触・非対面を同時に実現します。

5	8	9	11	16
5.b	8.2 8.5	9.1 9.4	11.1 11.3 16.1 16.2	



感染症拡大への対応

新型コロナウイルスの感染拡大により、都市機能も一極集中から多極分散化に向かうことが想定される中、人々の働き方や生活様式が変化しています。このニューノーマルに向けた対応策やソリューションをいかにスピーディに準備していくかが国や民間企業の新たな、そして大きな役割として期待されています。OKIは、ATMやプリンターで培ったハードウェア技術、ロボティクス技術といったモノづくりの強みを活かし、タッチパネルの非接触化を実現した「ハイジニックタッチパネル」を搭載した多機能セルフ端末を、人々の生活動線に配置

していきます。また、これまで実績を積み重ねてきた高速道路のETC自動決済サービスを一般道路へ展開し、ドライブスルーでの非接触・非対面による自動決済の実現を目指した実証実験を行っています。さらに、AIによる視線・感情認識技術を活用した「スマートリコmend」により、店頭販売における非接触・非対面を実現し、店舗運営の効率化にも貢献していきます。こういったソリューションは、金融・流通のさまざまな店舗や医療機関などでも、感染リスクを最小化し、安全で便利な街の実現に貢献します。

